

第2回 神奈川県営水道事業審議会 水道料金部会 議事要旨

日時

令和4年7月27日（水曜日） 13時30分～15時30分

主な議事内容

- 今後のスケジュールについて確認を行った
- 需要予測を行った場合の人口及び水需要の想定シナリオ並びに水道法等を踏まえた、水道料金の算定期間について議論を行った
- 県営水道における地下水からの転換減額制度や他事業体における地下水対策について議論を行った
- 固定費の配賦割合について複数のシミュレーションを用いた議論を行った

主な意見（議事要旨）

- ▶ 長期的な財政の安全性を見る必要があるため、施設整備のロードマップですでに10年ごとの目標を定めていることから、少なくとも10年以上という目線を持つべきではないか。
- ▶ 10年は相当に長期であり、将来像を描くという意味合いと料金の原価計算を行うという意味合いは違うと思う。物価が大きく動き、金利も今後の見込みが分からない状況では、5年が適当ではないか。
- ▶ 地下水転換減額制度について、収入を得るための努力は大事だが、恒常的な減額措置が行われることになっていることで、負担の公平性という観点から課題がある。制度の良し悪しは別として、県営水道に価格の優位性がない部分に関して減額するという考え方もあるのではないか。
- ▶ 使用が想定される水量を前提に水道施設を作っているわけだから、それに見合った形を使用してもらわないと適正利用にならない。そうでないと、他の利用者に負担が転嫁されたり、あるいは社会全体に転嫁されることになってしまう。
- ▶ 基本水量について、何をもって標準的とするか。実使用量の実績の標準なのか、あるいは施設設計上で想定される標準水量なのか、いろいろある。
- ▶ 働き方やライフスタイルが変わっていく中で、用途を完全に見分けることはなかなか難しいと思う。それぞれの口径にどういった特性があるのか、家事用と業務用で分けて考えながら、ある程度公平な負担となる形にできるのか。